



高齢ペットの健康な認知機能

# 犬の加齢に伴う軽度の認知低下と食餌の役割

脳内で起こる加齢性的変化は犬の認知低下につながる可能性があります、人の加齢に伴う認知低下と類似しています。



臨床的な徴候には、記憶力、注意力、訓練可能性の問題に加え、見当識障害、睡眠/覚醒のサイクルの変化、社会的交流の低下も含まれることがあります。

加齢に伴う認知低下の程度は、「通常に加齢」と見なされる、ごく少数のわずかな徴候を伴う軽度（早期）障害から、より重篤な徴候が見られる、人間のアルツハイマー病に類似した認知機能不全症候群（CDS）にまで及びます。

軽度の障害は、6歳の犬でも報告されています。一般的に、加齢性認知低下はゆっくりと進行しますが、進行が速いかどうか、どの程度の速さで進行するかは、個々の犬によって異なります。軽度の加齢に伴う認知低下は、これに気づくことが重要です。というのも、目的に合わせた栄養などの管理アプローチにより、進行を遅らせ、徴候に対処できる場合があるからです。

ご存じでしたか？

栄養が、脳の老化を遅らせる可能性があります。

## キーメッセージ

- 脳では、加齢に伴う代謝、構造、機能の複合的な変化が生じ、それが加齢に伴う認知低下の原因となります。脳は主なエネルギー源としてグルコースを使用しますが、高齢（犬が通常「シニア」と見なされる7歳以上）の犬の脳ではグルコースの代謝効率が低下するため、脳のエネルギーが枯渇し、認知低下を引き起こします。
- 高性能化した植物油に由来する中鎖脂肪酸トリグリセリド（MCT）を含む食餌を与えると、シニア犬の認知面での健康をサポートできる可能性があります。MCTは、脳の代替エネルギー源として機能します。Purinaの研究では、MCTを含む食餌を与えられた健康なシニア犬は、開始2週間以内に記憶力が改善し、認知テストでの不正解が少なくなったことが示されました。また、MCT食を与えられたシニア犬は、対照食を与えられた犬に比べ、複雑な課題で優れた成績が認められました。
- 脳をサポートするその他の栄養素には、オメガ3脂肪酸のDHAとEPA、ビタミンCやビタミンEなどの抗酸化物質、アミノ酸であるアルギニンやビタミンB群などがあります。Purinaの研究では、これらの栄養素を補足した食餌を与えられたシニア犬は、いくつかの学習課題の成績が良かったことが示されています。

(次のページに続く)

#### その他のリソース

Dewey, C. W., Davies, E. S., & Wakshlag, J. J. (2019). Canine cognitive dysfunction: Pathophysiology, diagnosis, and treatment. *Veterinary Clinics of North America: Small Animal Practice*, 49, 477–499. doi: 10.1016/j.cvsm.2019.01.013

Pan, Y., Larson, B., Araujo, J. A., Lau, W., de Rivera, C., Santana, R., Gore, A. & Milgram, N. W. (2010). Dietary supplementation with medium-chain TAG has long-lasting cognition-enhancing effects in aged dogs. *British Journal of Nutrition*, 103, 1746–1754.

Pan, Y., Kennedy, A. D., Jonsson, T. J., & Milgram, N. W. (2018). Cognitive enhancement in old dogs from dietary supplementation with a nutrient blend containing arginine, antioxidants, B vitamins and fish oil. *British Journal of Nutrition*, 119, 349–358. doi: 10.1017/S0007114517003464

Purina Institute は、ペットがより長く、より健康的に生きるための、科学に基づく顧客に寄り添った情報を提供することで、ペットの健康に関する議論の最前線に栄養を位置付けることを目指しています。